

と、父3が帰って来る。

父3 どうなってんだ……おい。

男 あ……どうだった、病院。

父3 受付の看護婦がさ、この保険証違うって言い張るんだよ……俺のだって言ってるのに違いますの一点張りで……痛え……。

男 診てもらわなかったのか。

父3 言い合いになったから帰って来ちゃった。

男 そうなるだろうなとは思ってたんだけどね。

父3 言えよ、だったら。

男 言ったのに聞かずに出てったんだろうが。

父3 ちよつと俺、横になるわ……痛え……邪魔だな、こいつら……もういいから捨てちゃえ。

父3、ベッドに横たわる。

父3 ^{おれいしより} 副作鼎か……これ……。

男 何の。

父3 脱皮のだよ……朝方脱いだ時は清々しい気分だったんだよ……おお、また若返ったぞってなもんでさ……一時間くらいしたら急にミゾオチの奥が……ああ、痛ええ。

男 あつ！

父3 え？

男 覚えてる……俺が小学生の時、親父入退院繰り返してた。

父3 入退院？ そうなの？

男 手術したんじゃないかったかな、確か。

父3 嘘、やだよ。

男、父2のシャツめくってお腹を見してみる。

男 ほら、ここ切ってる……~~あ~~こっちも。

父 3 おいおい冗談じゃないぞ……え、待てよ、ってことは悪いとこ昔に切ったんだろ。

男 ああ。

父 3 だったらもう今、悪いところ無いハズじゃないか。

男 違うよ、今の親父は悪いとこ切る直前の親父なんだから。

父 3 そうじゃないだろ、悪いとこ切った後の俺が悪いとこ切る直前の俺になったんだぞ。

男 ……え？

父 3 だからすでに悪いとこ切ってるんだよ、俺は。

男 (父3のシャツめくって) な、ほら切ってないんだよ。

父 3 俺はね、でも昔切ってるんだよ、俺は。

男 切ってないんだよ。悪いとこ切ったのは昔の親父なんだけど今の親父は悪いとこ切った親父より前の悪いとこ切ってない親父なんだから悪いとこ切ってないんだよ。

父 3 よく解らんけど……切ってるんだろ、こいつは。

男 見りゃ分かるだろ、これ。

父 3 昨日の明日は今日だよな。

男 何言ってる。

父 3 今の俺は昔の俺だが新しい昔の俺だから……あれ？ 切ってないのかな。

男 いいよ、もうややこしいから……痛いんだろ？

父 3 痛いんだよ、ズーンって。

男 覚えてるよ、ガンかも知れないっておふくろ保険のパンフレットかき集めてたから。

父 3 何てヤツだ。

男 結局、胃潰瘍だったんだけどな。

父 3 その話聞いたらすぐく痛くなってきた……なんか薬ないかな。

男、救急箱を探る。

男 サクロン。

父 3 それでいいや。

男、コップに水……父 3、薬飲んで。

父 3 なら……俺は今いくつくらいなんだろう。

男 えっと、だから……五十くらいじゃないかな。

父 3 卓也……ちよつと背中押してくれ。

男 え どころ。

父 3 左の……肩の下の方……もうちよい上……そこ……ギユウって……。

男 こう？

父 3 そうそう……五十か、悪くない年頃だなあ。

男 なんか張ってるぞ。

父 3 もう少し強く……力ないなあ……。

男 (押す)

父 3 そんな感じで……ギユウって……。

男 上に乗らされたよ、よく。

父 3 上？

男 背中に……やっぱり、ちよつどこの辺りだった。

父 3 何年生？

男 覚えてないけど……5年生くらいだったと思う。

父 3 後樂園、行つたろ。

男 後樂園？……ナゴヤ球場だろ。

父 3 長嶋だぞ。

男 ……引退試合。

父 3 うん。

男 見た……ああ、見た見た。

父 3 総務の横山がドラキチでさ、三塁側のチケット持ってたんだけど行けなくなつたからつてくれたんだよ。

男 その人覚えてる、よく野球のチケットくれた人だよな。

父 3 中日ボロ負けだったけどさすが長嶋だなあ、三塁側だつてのに誰もヤイヤイ言

わないなあって思ってたらさ。

男 ほとんど周り巨人ファンだったんだよな。

父 3 そりゃあ、青い野球帽被ってるの揃前だけだったもんな。

男 みんな総立ちになっちゃったから長嶋全然見えなくてさ。

父 3 俺は見た、泣けた。

男 あれ……夜行に乗ったのってあん時か？

父 3 鈍行な。

男 なんだか心細かったんだよなあ……乗ってる人達の得体が知れなくて。

父 3 あれ椅子が垂直だから寝られななんだ、腰が痛くて。

男 新聞敷いて通路で寝てる婆さんがいてさ、俺のことずっと見てるんだよ、もう怖くて仕方なかった。

父 3 何言ってる、お前クウクウ寝てたじゃないか。

男 寝たふりしてたんだ……一生懸命目えつむってたんだよ……親父の上着必死で握り締めてさ。

父 3 それでか、上着の裾シワだらけになってたの。

男 夜が凄く長かったな……。

父 3 おい、また弱くなってるぞ……もつとギユウって。

男 乗ろうか、上に……。

父 3 乗りたきやお前も「ぬけがら」脱げ。

男 そうだな……(押す)。

父 3 ついこの間の出来事なんだよ。

男 ……ああ、そんな気がする。

父 3 長嶋かあ……もう死んだかなあ。

男 生きてるよ、ちよつとヤバかったけど。

父 3 横山は生きてるのかな。

男 いくつ。

父 3 俺の二つ下だ。

男 八十か……微妙だな。

父 3 よし……ありがと、楽になった。

男 え、もういいの。

父 3 一応、サクロン持ってこうかな。

男 どこ行く気。

父 3 横山に会いに行く。

男 やめとけよ、生きてるかどうかも分からんのに。

父 3 住所分かんかな。(電話台探ったり)

男 死んでたらどうするの。

父 3 線香上げてやるさ。

男 生きてたら。

父 3 目の前で飛び跳ねてやるさ、こうやって、ハハハ、横山め腰抜かすだろうなあ。

男 ドンドンすんな。

父 3 おつ、年賀状が取つてある。

男 (取り上げて) 後先考えずに行動すんなって、あんたは今普通じゃないんだぞ。

父 3 明日はちゃんと診察してもらうよ。

男 腹の具合じゃねえよ。

父 3 うるさいなあ、いちいち……母さんかつ、お前は。

男 え？

父 3 (取り返す) ガキン時のお前は俺の味方だったのに、やれやれ四〇はなつたら
母さん側か……
何言つてんだ、この数週間誰があんたの面倒見たと思つてる。

男 判らないヤツだな、お前が面倒見たのはこいつ(父1)であつて、俺じゃない。

父 3 この親父は親父の後の親父なんだから、当然親父だろ。

男 もういい、その論争に俺を巻き込むな。

父 3 (取り返す) とにかく勝手に出歩くなよ。

父 3 それだ、その「とにかく」つての、大した理由も無い癖して頭ごなしに自分の
意見をゴリ押しする時の常套句、
母さん
あいつの言い方そっくりだ。

男 相変わらずだな……まったく。

父 3 何がだ。

男 ちつとも人の話聞きやしない……
昔
昔時のまんまだ。

父 3 母さんだよ、人の話聞かないのは。

男 違うね、俺はあんた達の夫婦喧嘩黙って聞いてたけど、正論はいつも母さんだ

った。

父 3 今さら何ぬかす、いつも俺の背中くつついてたクセしやがって。

男 そう思つてればいいさ。

父 3 あれ？ 嫌な言い方するなあ。

男 いいよ、もう昔の話は。

父 3 お前にとつては昔でも、俺にとつては今なんだよ……まったく、公務員になんかなつちまいやがって。

男 え、何だよ、それ。

父 3 俺は気に食わないんだよ、安定志向つてヤツが……どうせ母さんに丸め込まれたんだろう。

男 あんたも喜んでたじゃないか、俺が入局した時。

父 3 知らないね……喜んだのはこいつ（父2）だろ。

男 ……

父 3 少なくともガキの頃は母さんじゃなく俺を頼つてたんだ、お前は。

男 あ、そう……俺、このことは言いたくなかつたんだけど……。

父 3 ん？

男 このことは俺の胸の内は収めようと思つてたんだけさ……。

父 3 何だよ、ハッキリ言えばいいじゃないか。

男 なら言わせてもらう……俺は当時、あんたの味方してるフリをしてただけなんだっ！

父 3 フリ？

男 ずっとな……。

父 3 俺を騙してたつてのか。

男 ああ、そうだよ……俺はあんたに心開いたフリをしてたんだつ、あんたのご機嫌を取るためになつ！

父 3 なんだと……貴様、なぜそんな真似を。

男 電線マンを見るためにだよつ！

父 3 ……電線マン？

男 チュチュンがチュンて奴つ！ あれ観とかないと次の日クラスで会話に入れななんだつ、ツヤ小ジキはされちまうんだわ！ 何としてもアレ観ないと駄目

なんだよっ！ だから俺はあんたに媚売ってチャンネル権を獲得してたんだっ、判ったかっ！

父 3 ……半泣きで主張する程の話じゃないだろ、それ。

男 小学生にとっては重大な問題なんだよ……俺はお金を俺をも欺いてあんたは魂売ってたんだ……電線マンのために。

父 3 ……。

男 精一杯演技してたんだ……俺。

父 3 なんて姑息な……どうして正々堂々と挑まないんだ、お前は。

男 だって無理だも、見せろって言ったら見せてくれたのか。

父 3 日和見主義め、そんなだからこんななつちやつたんだ、お前は。

男 〆ホント姑息だよなあ……この歳はなつて跳ね返すとはな……。

父 3 人の顔色ばかり伺いやがつて……敵を作ることを恐れるな、男なんてのは人に嫌われるくらいが丁度いいんだぞ、卓也。

男 今、そんな人生訓言われたって……。

父 3 遅いな……確かに……。

男 ……もつと、色々話せば良かったな……あんたと。

父 3 ……。

男 こんなふう……。

父 3 話、しなかったか……俺、お前と。

男 ……。

父 3 そうか……。

男 俺が避けてたのかも知れないけど……たぶんそうだな。

父 3 卓也あ！

父 3、いきなり男を抱きしめる。

男 ……親父。

父 3 すまん。

男 謝るのは俺だ……親父。

父 3 水くれ。

男 え？

父 3 興奮したらまたズーンて。

男 明日は必ず診てもらえよ。

男、コップに水。

父 3 なあ、俺はお前と酒飲んだか……。

男 酒？

父 3 駅から坂下ったところに「徳丸^{トクマル}」って飲み屋があつてさ、お前が成人したらそこで一緒に酒飲もうって決めてたんだ。

男 行き付け？

父 3 うん……飲んだか。

男 いや……。

父 3 なんだ、行つてないのか。

男 俺、酒飲めないし。

父 3 ちえ、やっぱりお前は母さん側だ。

男 付き合おうか……行こうか、その店。

父 3 いいよ、今さら……飲めない奴と行つてもつまらんし。

父 3、菓を流し込むと年賀状に目を通す。

父 3 ま、ささやかな夢だったんだよ、お前が小学生の時のな。

男 ……。

と、玄関のチャイム。

父 3 (賀状見ながら) お客さんだぞお。

男、ドアを開けると女4が立っている。

女 4 あ……いた……。

男 ……。

女 4 ごめん、いると思わなかった。

男 何しに来たの。

女 4 お母さん、亡くなったんでしょ。

男 ああ。

女 4 私、知らなかったから。

男 知ってたら？

女 4 え。

男 知ってたら、葬儀来るつもりだったの。

女 4 そんなに愚かじゃない、私。

男 嘘だろ、いると思って来たんだろ。

女 4 …うん、ちよつとね。

男 悪い、帰ってよ。

女 4 お焼香させて。

男 顔見せないって言つたら、お前…もう顔見せないって。

女 4 …ごめんなさい…本当にごめんなさい。

男 帰ってくれ。

父 3 (来て) 上がりなさい。

男 おい。

父 3 この人なんだろ、ここで帰したって何の解決にもならん、ちゃんと話をつけんと。

男 ついてるんだよ、もう。

父 3 なら、なぜ訪ねて来る。

男 …。

女 4 お焼香済ませたらすぐに帰りますから。

男 とりあえず今日のところは帰ってくれ。

父 3 問題を先送りさせるなっ！ まだ判らんか、卓也。

男 …。

父 3 どうです、今日この場でキチンと話つけませんか。

女 4 …。

父 3 上がりなさい。

女 4 …お邪魔します。

女 4、祭壇の前に座ると香典を置いてお焼香…。

女 4 …すみませんでした、今日は突然来てしまいました。

父 3 いえいえ…じゃあ、俺は行くから。

男 ええ？

父 3 ほらこれ、横山の年賀状見つけたんだよ。

男 ちよつと待てよ、話つけるんじゃないのかよ。

父 3 何で俺が話つけるんだよ、お前の問題だろ。

男 あんたが上げたんじゃないか。

父 3 状況は作った、あとはお前自身でケリをつける。

男 おい…。

父 3 もう小学生じゃないんだろ、ここは一発男を見せろ、そんじゃあな。

父 3、出て行く。

男 …。

女 4 今の人、お父さんじゃないよね。

男 え、ああ、弟、親父の。

女 4 懐かしいなあ、この家…。

男 もう済んだろ、帰ってくれよ。

女 4 奥さんと別居したんだって？

男 …誰から聞いた。

女 4 田所先輩。

男 田所から？

女 4 うん、お母さん亡くなったってことも彼から聞いた。

男 なんだあいつから。

女 4 え、だつて知らせたんでしょ、映研の人達に。

男 そういう事じゃなくてさ…連絡取り合ってるのかつて、あいつと。

女 4 最近、ね。

男 やめとけよ、あいつは。

女 4 何を？

男 あいつのどこ子供いるんだから。

女 4 …失礼ね。

男 違うならいいけど、お前、分かんないから。

女 4 何が？ え？ 分からないって何が？

男 いいよ、もう。

女 4 出たかったんだよ、私だって…葬儀。

男 …。

女 4 お母さんとここで一緒にビデオ見たんだよね、卓也が撮って私が出てるの。

男 そんな話いいだろ。

女 4 「爆弾娘」…まだある？

男 さ、帰ってくれ。

女 4 冷たいなあ…ずいぶん。

男 一体いつになったら俺を解放してくれるんだ、お前は。

女 4 そんな拉致監禁みたいな。

男 帰れよ。

女 4 もっと優しいよ、田所先輩は。

男 …。

女 4 卓也先輩も優しくったけどね。

男 出でけっ。

女 4 ウソウソ、田所さんとは何もないって。

男 そんなこと聞いてない、出でけっ！

女 4 …。

男 頼むからっ！ もうお前と顔付き合わせるのには御免なんだよ。

女 4 …ちよつと、それひどい。

男 俺の人生メチャクチャなんだぞ、もう。

女 4 最初に誘ったのは卓也じゃない、そうだね、違う？ 違うないよね。

男 …またその話か…。

女 4 だって…大事なところじゃない、そのところってさ。

男 あん時の状況でどっちがとが……いいよ、それも前に話した。

女 4 私が子持ちのバツイチだって知ってたんだよね。私が寂しい事知ってたんだよね。私ならすぐにセックスできると思ったんだよね。私なら押しかけたりしないと思ったんだよね。そうだよ。

男 ……それも聞いた……。

女 4 そうだよ……もう私たちにはこんな話しかないんだから。

男 俺たちはもうカタがついたろ、違うのか。

女 4 ついてないよお、卓也。

男 あの日だってそうだ、まんまと俺をおびき寄せやがつて……あの日には俺は全てを失ったんだ……家庭も仕事も将来も。

女 4 ……。

男 全部ぶっ壊れたっ！

男、香典を女4の前に。

男 持って帰ってくれ。

女 4 ……それ、卓也だけかなあ。

男 え……。

女 4 私は、ぶっ壊れてないのかなあ……。

男 ……。

女 4 そんなに強くないよ……私。

男 分かってるよ、そんなこと。

女 4 え、何？ さっき私のこと分からないって言ったじゃない。

男 ……。

女 4 壊れちゃったよ……私も、それから……翔太もね。

男 ……翔太君。

女 4 あの日、事故さえ起こさなきゃ……何事もなく家に帰って、何事もなく過ごす事が出来たのに……誰も不幸にならずに……。

男 ……。

女 4 私達ね、もうあそこのマンション住めないのよ。

男 え？

女 4 卓也が撥ねた子、うちの子の同級生だもん。

男 あ……

女 4 そういうこと考えた？ 少しでも考えてくれた？

男 ……

女 4 うちが母子家庭だつて隣近所^{みんな}知ってる訳だし……格好のネタになるじゃない、翔太だつて学校行けなくなるじゃない……

男 ……翔太君、今いくつだっけ。

女 4 5年生。

男 ……

女 4 夏休みの間に引越して転校させようかって考えてる……あの子、サッカー部頑張ってたんだけど……やっぱり無理みたい。

男 そうか……

女 4 私達にだつて人生はあるんだからね。

男 ……そうか……そうだよな……

女 4 喉渴いた……

男 え。

女 4 ごめん、いい……

男 ……牛乳しかないけど。

女 4 ありがと……頂いたら帰るから。

男 うん……

男、冷蔵庫から牛乳出してコップに。

女 4 あ、氷入れてね……ぬるいの駄目だから。

男 うん……(そうする)。

女 4 奥さん、どう？

男 え……どうって。

女 4 一番可哀想なの、奥さんかもね。

男 ……ほら。

と、牛乳を持ってきて父1父2がベッドの部屋に転がっているのが目に入る……男、慌ててシーツを掛ける。

女 4 そっち誰かいちの？

男 いや……さっきの人が寝てたんだ。

女 4 前の旦那がね、再婚するらしいのね。

男 そう……。

女 4 あ タバコ……いい？

男 灰皿ないし。

女 4 ごめん、ならいい……でね、その前に一度でいいから翔太とサッカー観に行きたいって言ってきたのね……もう、何年も会ってないんだよ……翔太に何て切り出したらいいのか分からなくて。

男 ……うん。

女 4 あ、ごめん……こんなこと卓也に相談する事じゃないんだけどね。

男 いや……いいけど。

女 4 子供って結局親の都合で振り回されちゃうんだよね……特に私みたいなのは母親の資格ないもんね。

男 そんなことないだろ……幼稚園だったんだろ、別れた時……一人で頑張ってるよ。

女 4 奥さんの不妊症、直らないの？

男 え？

女 4 そうなんですよ。

男 ……そんなこと、俺、話したか。

女 4 相談受けたって、田所さんが。

男 なんであいつ、そんなことをペラペラ……。

女 4 隠すことじゃないよ、今時多いらしいし。

男 美津子
あいつに原因があるって訳じゃないんだよ、特に。

女 4 だって……卓也は妊娠させられるじゃない。

男 ……。

女 4 ごめん、この持ち出し方はフェアじゃないね。

男 ……

女 4 どうしよっかなあ、会わせたほうがいいのかなあ。

男 飲まないの。

女 4 え？

男 牛乳……

女 4 ありがと、卓也。

男 何が。

女 4 頑張ってるって言ってくれて……ちよつと嬉しかったな。

男 ……

と、台所でガタンと音……男、見に行く。

男 ……あれ……

女 4 どうかしたのお？

男 鍋が落ちてる……

と、玄関のチャイム……男、ドアを開けると女1。

男 !

女 1 お父さん、どうしたって？

男 いや……あ……お前来たんだ……

女 1 ちよつとね……（上がる）え、お客さん？

女 4 ……お邪魔してます。

女 1 ……

女1、咄嗟に帰ろうとする。

男 違う違う……違うんだってっ！

が、瞬時に思い留まり部屋に戻る。

男 落ち着けよ、な、落ち着けつて。

女 1 落ち着いてるよ……。

男 あ、ホントだ……ホントだね。

女 1 佐藤さんですよ。

女 4 (土下座) ごめんなさいっ、本当にごめんなさいっ！ 今日はお焼香に来ただけなんです。すぐに失礼します。

女 1 ……それ、飲んでからでいいですよ。

男 ……。

女 1 頭上げて下さい……顔が見えませんか。

男 すぐに帰るハズだったんだけど親父がさ。

女 1 それ、お出ししたのお父さん？

男 え、牛乳？ ……や 牛乳はまあ、俺が……。

女 1 ストロークくらい付けてあげなさいよ、飲みにくいじゃない。

女 4 いえ、お構いなく……頂きます(と、一口)。

女 1 口紅付いちゃっし……。

女 4 ……(指で拭う)。

女 1 見ました……映画。

女 4 え？

女 1 学生時代にこの人が撮ったっていう短編映画……「馬鹿娘」でしたっけ。

女 4 ええ？ 何だろう……いっぱい撮ったんで……「爆弾娘」のことでしょうか。

女 1 ごめんなさい、それでした……全然変わってないですね、当時と。

女 4 そんなことないです、十数年も前ですし……。

女 1 ホントに、今でも充分「爆弾娘」ですよ。

女 4 怒ってますよね……私のこと。

女 1 事故の報告を受けた時は……もう今は全然、何とも。

女 4 私、いつか奥さんに謝らなきゃってずっと思っていました。

女 1 そうですか。

女 4 奥さんが一番の被害者ですもんね。

女 1 被害者？

女 4 ええ、さっきも二人で話してたんです……可哀想だねって。

女 1 ……

女 4 ……

男 分かった…佐藤さんもう帰って

女 1 (立つ) お父さんどこ?

男 え?

女 1 だって私はお父さんに会いにきたんだから。

と、女1ベッドの部屋のシーツをめくる。

女 1 ……あ。

女 4 え…えつ…ええつ?

女 1 本当だ、増えてる。

女 4 ……きやあああつ! 死んでるう…死んでるう…。

男 死んでない、死んでない。

女 4 いやああ…いやああ…。

と、アロハシャツにウクレレ手にした父4が帰って来る。

父 4 おいおい、賑やかだなあ、何、どうしたの。

男 ……

父 4 おつ牛乳、これ飲んじゃっていい?

男 ……あんた…まさか。

父 4 ハハハ、まいっちゃった、また脱いじゃったよお。

三人 ……

父4、牛乳を一気に飲み干す。

暗転。